第１学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　１年２組教室　指導者　山田　みさ

１　主題名　なかよくすると（B友情、信頼）

（教材名：二わのことり　出典：生きる力１【日本文教出版】）

２　目　標

ひとりぼっちで寂しそうにしている友達に声を掛け、一緒に遊ぼうとすることで、友達だけでなく、自分もうれしくなることに気付き、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

児童にとって「友達」とは、家族以外で特に深い関わりをもち、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに信頼し合い、高め合える存在である。友達関係の状況によっては学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。しかし、そんな存在の相手に対しても、自分のことが中心となって、大切にすることが難しい場面もある。しかし、心の底には「友達になりたい」「仲良くしたい」「穏やかに過ごしたい」という気持ちがある。また、学級での生活を共にしていくことで、互いに助け合って、支え合って関係が成り立っていることにも気付く。一緒に勉強したり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねていく中で、違うところがあっても仲良くなることができ、相手だけでなく、自分もまたうれしい気持ちになることを感じる機会にしたい。

【学習前の児童の姿】

入学当初は、同じ園の子と遊ぶ姿が多く見られたが、集団生活にも慣れてきた。男女の仲もよく、休み時間には運動場に出て遊んだり、教室で話をしたりする姿が見られる。また、友達が困っていれば自分から声をかけ、助けようと行動できる子が多い。しかし、時に、自分の思いを知ってほしい、やりたいことを実現させたいという自分中心な考えにとらわれ、相手の様子や考えに思いを巡らせようとしない場面もある。この教材を通して、自分の思いだけでなく相手の思いを考え、「友達と仲良くしたり助け合ったりすると、互いにうれしい気持ちや楽しい気持ちになる」「けんかするよりも仲良くした方が楽しい」ということを、これまでの経験を振り返りながら理解を深めたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・どちらの友達の家に行くか迷ったり、途中でうぐいすの家からやまがらの家に移動したり、みそささいの心の揺れや迷いがある。友達のことが気になって迷ったり、やまがらの涙を見て、来てよかったと思ったりするみそささいの気持ちを考えることができる。

・友人関係は児童の生活にも深く関わるため、同様のことはなかったか、自分の生活を振り返りながら道徳的価値について考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・みそささいの気持ちの揺れや迷いを、心情メーターを使って一人一人視覚化し、なぜそのようにしたのか理由を問いながらペアで話し合いが活発にできるようにする。

・事前アンケートを活用し、日常での友達との関わりやそのときの気持ちを振り返り、授業前後の変化が分かりやすいようにするとともに、自分の生活に生かそうとする意欲を高める。

【学習後の児童に期待する姿】

・友達と仲良くすることで、互いに楽しい気持ちやうれしい気持ちになることに気付き、自分中心ではなく相手のことを大切に考え、進んで遊びに誘ったり仲良くしようとしたりする行動を進んで取ろうとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

導入では、事前に取ったアンケート「友達と一緒に過ごしていて、うれしい気持ちや楽しい気持ちになるのはどんなときかな」の結果を提示する。ここでは、自分のやりたい遊びができたとき、友達が何かをしてくれたときと感じる児童が多いことを押さえ、「友達と仲良くすると、互いに楽しみ、喜ぶ気持ちが生まれる」という本時のねらいへの足掛かりとしたい。

展開では、教材のアニメーションを視聴する。やまがらの家に行くか、うぐいすの家に行くか迷いながらもうぐいすの家に行くと決めたときの気持ちや、うぐいすの家で楽しめずに抜け出したときの気持ちを考える。「近くて明るいから」「みんなが行くから」という理由でうぐいすの家に向かってしまい、一人で待っているやまがらの気持ちを考えられなかったという後悔があることを押さえたい。

中心発問では、うっすらと涙を浮かべるやまがらを見たみそささいの気持ちを考え、話し合う。自分がやまがらを大切にすることでやまがらは喜び、自分もその姿を見てうれしい気持ちになるという相互の関係があることに気付き、本時のねらいに迫りたい。そして「めあて」に戻り、仲良くしようとすると、友達だけでなく、自分もうれしくなると気付くことができるようにしたい。

終末では、導入で提示したアンケートの結果から、友達と仲良くすることが、自分の思い通りにできることだけではなく、互いに楽しみ、喜ぶ気持ちが生まれることが友達と仲良くするよさであるという考えについて確認し合いたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、電子黒板、タブレット端末、ワークシート

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　アンケート結果を提示する（4）	友達と一緒に過ごしていて、うれしい気持ちや楽しい気持ちになるのはどんなときかな			
	・遊んだとき。	・助けてくれたとき。 ・好きな遊びができたとき。	・「遊ぼう」って言ってくれたとき。	※今の自分たちにとって友達は、自分を喜ばせてくれる存在であること、してもらうとうれしく楽しい気持ちになることを確認する。
2　めあてを確認する（1）	めあて　友達を大切にすると、どんなよいことがあるかな			
	・けんかしない。	・助けてくれる。	・楽しい。	
3　教材アニメーションを視聴する（4） 4　どちらのうちに行くか迷うみそさざいの気持ちを考える。（7）	どちらのうちに行くか迷っているみそさざいは、どんな気持ちかな			
	・どっちも行きたいな。 ・選べないよ。	・近くて明るいうぐいすのうちの方がいいな。 ・みんなが行く方にしようかな。	・誕生日は特別だから行った方がいいかな。 ・手紙をくれたけどみんな行かないからいいや。	※迷う気持ちの理解を促すために、挿絵とともに状況整理をする。
5　やまがらが気になって楽しめないみそさざいの気持ちについて考える。（7）	うぐいすのうちにいるとき、みそさざいが楽しくないのはどんな気持ちからかな			
	・歌とごちそうで楽しいと思う。 ・やまがらのうちに行けなかった。 ・どっちも行きたかった。	・誕生日のやまがらのお祝いに行けなかったから。 ・手紙もらったのにいいのかな。 ・やっぱりやまがらがかわいそうだな。	・友達のことを考えないで来ちゃった。 ・やまがらは一人ぼっちでさみしいはず。 ・やっぱり行こうかな。	※「明るい場所でみんなもいるし、歌を歌ったり、ごちそうを食べたりして楽しい気持ちじゃないのかな」と問い返し、自分の楽しさではなく友達のことを思う気持ちが強くなっていることを押さえる。
6　やまがらの涙を見たみそさざいの気持ちを考える。（１２）	うっすらと涙を浮かべるやまがらを見て、みそさざいはどんな気持ちかな			
	・泣くほど寂しかったのかな。 ・ごめんね。 ・誕生日に誰もお祝いしてくれないのは悲しいね。 ・みんなで来ればよかった。	・うぐいすのうちじゃなくて、始めからやまがらのうちに行けばよかった。 ・泣くほどうれしかったなんて、びっくりした。 ・来てよかったな。 ・何も考えてなくてごめんね。 ・先に誘ってくれていたから、やっぱり来た方がよかった。 ・もっと早く行けばよかった。	・やまがらが喜んでくれて、自分もうれしい。 ・ちゃんと友達のことを考えてよかった。 ・喜んでくれたなら、自分もうれしい。 ・歌やごちそうよりも、友達と仲良くする方がうれしい。 ・みんなにつられて行っちゃったけど、ちゃんと友達のことを考えてよかった。	※後悔の思いや手紙をくれたことへの誠実さに意見が集まる場合は、やまがらの涙に注目させ、さまざまな思いがある中で今回はうれし涙であることを確認し、友達が喜んでいることが自分の喜びにつながることを押さえる。 **【キーワードとなる児童の発言】** **「ごめんね」「自分もうれしい」** **「来てよかった」** **「約束したから」** **【キーワードに対する切り返しの発問】** **「涙が出るのは悲しいときだけかな」** **「うれしい気持ちになったやまがらを見ると、みそさざいはどんな気持ちになるのかな」**
7　めあてについて考える。（6）	友達を大切にすると、どんなよいことがあるかな			
	・相手が喜んでくれる。 ・けんかが少なくなる。	・仲良くすると互いにうれしくなる。 ・仲良くすると、相手が喜んでくれるし自分もうれしい。	・互いにいい気持ちになるし、もっと仲良くしたいと思う。 ・これから友達と一緒にいろんなことをしたい。	※アンケート結果と授業内での児童の意見を比較し、この１時間でめあてに対する考えの広がりや深まりを確認する。
8　振り返り（4）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・仲良くするとうれしい。	・自分も相手もうれしいから、これから仲良くしたい。	・一人でいる子には自分から誘って、みんなで仲良く過ごしたい。	※仲良くすると、互いに喜び、楽しむ気持ちが生まれることに気付くようにする。

（4）評　価

・友達と仲良くすることで、互いに楽しい気持ちやうれしい気持ちになることを考え、仲良くしようとする行動を進んで取ろうとする思いを表現しようとしているか。　（発言・ワークシート）